

大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：生駒委員（事務局一部修正）

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第3回 防災・あんしん部会				
(2) 開催日時	令和5年8月2日（水） 13：30～15：30				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室				
(4) 出席した 委員、事務局等	委 員（部会長：志村 陽子） <敬称略>				
	山内 京子	石塚 由江	福田 美和	一色 ふみ子	栗田 修平
	生駒 友一	小池 美津代	西條 由美子	蛭子 明子	棧敷 洋子
	近藤 博子				
	事務局：森合 美穂、秋山 仁志、檜山 咲紀、江川 奈保美、堀内 蘭				
1 連絡・確認事項					
(1) 司会・書記の確認					
司会：蛭子委員 書記：生駒委員					
(2) 参加者・配布資料の確認					
欠席者：名川会長、宇田尻委員、北島委員、窪田委員					
前回欠席の近藤委員と棧敷委員より自己紹介					
2 前回専門部会の振り返りと運営部会の報告					
(1) 第2回専門部会議事録 ご意見カード集約					
第2回専門部会では、令和5・6年度の取り組みについて意見交換を実施した。今回は、意見交換した内容を踏まえて、年間スケジュールを確定する。					
(2) 第3回運営会議の報告					
<ul style="list-style-type: none"> ・7月25日（火）に開催された自立支援協議会第3回運営会議の報告。各部会それぞれ第2回までの開催だったため、テーマについての報告が主となった。 ・相談支援部会は、今年度「相談の評価」を部会として実施していく旨の報告があった。 「相談の評価」とは、相談支援専門員がスーパーバイザーに助言や指導を求める相談についての評価なのか、障害当事者や家族が相談支援専門員に相談する個別相談に関する評価なのか、「相談」について改めて運営会議メンバーで意見交換を行った。当事者や家族の抱える困難や問題は、支援者側から見れば同じようなケースだとしても、人それぞれの問題であるため、安易に援助をパターン化したりすることは偏見や先入観につながる。「相談」と平板な言葉でケース一つひとつを軽く流さないで欲しい。なぜなら、障害当事者や家族にしてみれば、相談とは身を削るような気持ちで、思い切って胸の内を吐き出すような場面であることを、当事者の親の立場として志村部会長から意見を伝えた。防災・あんしん部会の立場で言えば、相談支援専門員は個別の避難計画を考える際にも大切なキーパーソンであるため、地域連携のスキルは今後大事になっていくので、連携を図りたい。 ・地域生活部会は、「10年後に住み続けたい大田区」をテーマに、個別の検討課題を抽出する方向で検討している。 ・10月2日（月）に大田区自立支援協議会委員の交流会を開催する。大田区自立支援協議会は、令和3年度から2年任期となり、本会は2年間で3回の開催としている。そのため、 					

本会の合間に全体交流会や勉強会を企画している。今回は、「あんしんカフェ」と同じようなかたちのグループワーク形式を予定している。また、全体交流会に向けて各部会の取り組みを共有するために「大田区自立支援協議会だより」を発行する。

3 議題

(1) 令和5・6年度専門部会の取り組みについて

(ア) 事務局から

前回の専門部会であがった意見を踏まえて、事務局で整理をした。

- ・防災訓練について参加の希望はあったが、今年度の総合防災訓練や矢口特別支援学校福祉避難所開設訓練は終了している。地区の防災訓練については、時期が未定。2年任期でもあるため、次年度参加できるよう事務局で情報収集し、早期に情報提供する。
- ・令和2年度福祉避難所と学校避難所のルートを確認のため、まちあるきを実施した。専門部会委員のみであれば、今年度企画は可能である。気候の落ち着いた11月の開催、12月に実施後の振り返りで考えている。
- ・10月2日の自立支援協議会全体交流会は、「あんしんについて考えよう」をテーマに意見交換を予定している。そのため、専門部会で開催するあんしんカフェについては、全体交流会を開催後に改めて検討していければと思う。

(イ) 志村部会長から

前回から期間が短かったので、個別で一部の委員から情報収集した内容を、「話題メモ」として配布している。地区防災訓練について、防災危機管理課が情報を把握しているか。各委員もお住まいの地区での情報収集し、専門部会で情報提供をしてほしい。

(ウ) 委員から

- ・当初は「まちあるき」をかなり大がかりなイベントだと認識していたが、部会メンバーを中心とした「まちあるき」なら今年11月にも実施できると思う。
- ・11月「まちあるき」に賛成。防災活動に熱心な町会長の地域で開催できると良い。全体交流会でのカフェについては、専門部会でデモンストレーションの時間があってもよい。
- ・昨年度、あんしんカフェを初めて開催した時は手探りの中で実施だったと思うが、評価についてはそれぞれ意見があると思うが、実績を作れたこと自体が成功だと感じている。全体交流会での意見共有も楽しみにしている。まちあるきについては、初めての参加になる。例えば、視覚障がいのある方と、車椅子ユーザーの身体障がいのある方とでは、何が「障がい」になるかは違う。お互いを知り合う機会として大事な試みだと思う。そのような体験を通じて得た知識を自分自身でも周囲に発信するように心がけたい。地域での防災訓練には参加している。その時々運営者によって視覚障がい者への情報保障合理的配慮が不十分だったりするところは気になっているが、身近な地域の人と知り合う機会として大事だと思って毎回参加するようにはしている。
- ・「防災活動に熱心な町会のエリアでまちあるきをしたらどうか」との意見が出ていたと思うが、新井宿出張所管内で言うと山王三・四丁目自治会は防災活動に積極的。理解啓発活動として地域、特に小中学校に入っていく際には、区内の小中学校で実施されている「夏のわくわくスクール」の枠組みを利用する手段もあるだろう。「夏のわくわくスクール」では、夏季休業中に、体験活動の充実を図るという目的のもと、児童・生徒の個性や能力を伸ばすための講座を開設している。

- ・前期のマイタイムラインの講座に参加できなかったので、今期も開催できるようなら実施をお願いしたい。地域での防災訓練に参加した時に、消防士が車椅子の介助や扱い方について知識が乏しかったり、「実際災害の時に来られても困る」と言われて驚いたりした経験があり参加できないと感じた。
- ・まちあるきはぜひ開催していただきたい。関東大震災に関する動画を視聴する機会があったが、地域によっては道が狭くて消防車が入っていけない地区もあることを知った。普段から自分の住む街を防災の視点で点検することは大事なことだと考えている。あんしんカフェについては他の委員から内容を聞いており、とても面白い試みだと感じている。気軽に話せる機会として継続できればよい。
- ・前回あんしんカフェの取り組みをととても良かったので、今期も開催してほしい。お互いの気持ちを素直に話せた。コロナ禍で防災訓練の開催も十分できなかったと思うので、起震車での体験など身近な地域での防災訓練への参加も考えたい。
- ・防災・あんしん部会なので、権利擁護の観点で、意見交換する場面をつくるのが大事だと考える。前回ご意見カードに、精神障がい者の委員参加を望む意見もあった。自己紹介の際にも触れたが、精神障がいの方のアパート探しをお手伝いしていると、権利擁護をどのように考えればよいか、立ち止まって考える時が頻繁にある。部会でも意見を出し合って、誰もが暮らしやすい地域をつくっていききたい。現状は「うつ」や「パニック障害」と伝えると、「そのような方にはアパートを紹介できません」と不動産さんに言われる。不動産屋さんとの相互理解を進めて、精神障がいのある方も地域の中で安心して暮らしていける環境をつくっていききたい。
- ・「障がい」でなぜ分けるのか。誰しも年齢を重ねれば目も見えづらくなり、耳も聞こえづらくなる。車椅子ステーションに協力しているが、骨折して車椅子をレンタルしに来る人もいる。精神障がいのある方のアパート探しを手伝ったこともあるが、知り合いの不動産さんに良くない対応をされたこともあった。地域の防災訓練も惰性で開催しているだけで、アップデートできていないケースはよくあるだろう。「障がい」という言葉で分けなくて、「誰もが安心して暮らしていくにはどうすれば良いか」。この視点で考えていきたい。
- ・7月20日にカミングアウトジャーニーのイベントに参加した。信頼できる方に、自分の悩みを話せることは良いことだと感じた。
- ・まちあるきを開催してマップを作る、好事例をホームページで掲載するなど、障害のある方への理解啓発を地域全体に広げていく。できれば子どもたちを含めて、街に出てカフェを開催して行く場面をつくりたい。また、地域での防災訓練がどのような企画運営がなされ、行政からバックアップされているのか、障害がある方が参加しても対応できるようなマニュアルやトレーニングの機会が提供できているのかどうか。今年度検討したい。

4 委員及び関係機関からの情報提供

(1) 情報提供

(ア) 矢口特別支援学校福祉避難所開設訓練の報告

矢口特別支援学校で福祉避難所の開設訓練に参加した。矢口特別支援学校の教員は知的障がいへの支援については蓄積があるように感じた。検討課題は多いが、今後も大田区と学校との連携・協力が進むように期待する。

(イ) イベントの報告

・7月20日にカミングアウトジャーニー上映会&トークライブを実施した。今回のイベントでは、情報保障としてUDトークを利用した。色んな立場の人とも共有したいテーマでもあり、イベント開催目的としても本来ならば情報保障として手話通訳を提供したいところだが、任意団体では活動費の捻出が難しい現状がある。

・情報保障については意思疎通支援事業などの利用をご検討いただければ、手話通訳者との事前のやり取りや会場スペースの準備などその他の場面では協力できる。関心あるイベントでは意思疎通支援事業の利用などもご検討いただき、地域のイベントでともに一緒に学べる場面を増やせればと考えている。

→UDトークは直接音声を取ると精度が良い翻訳ができる。ご提案の意思疎通支援事業の利用については、当事者団体内で検討したい。

(ウ) 事務局から

前回の専門部会の報償費はシステムの関係でまだ支払いできていない。近日中に振り込みを予定している。

(2) ご意見カードの記入

※次回の日程

第4回専門部会：令和5年9月6日（水）13時30分～15時30分 さぼーとぴあ